



改めて建築家の役割を考える

東京六陵倶楽部

今井 俊介（82期）

2020.08.15



レーモンド設計事務所入所まで

- 1952年 1月16日 大阪府吹田市生まれ
- 1964年（昭和39年） 大阪市立十三中学校卒業
- 1970年（昭和45年） 大阪府立北野高等学校卒業
- 1976年（昭和51年） 京都大学工学部建築学科卒業
- 1978年（昭和53年） 京都大学大学院工学研究科
修士課程修了（建築学）
（増田友也研究室）
- 1978年（昭和53年） 株式会社レーモンド設計事務所入所
（～1981年）

独立から今日まで

- 1981年（昭和53年）
 - 1993年（平成3年）
 - 1998年（平成8年）
 - 2001年（平成11年）
 - 2018年（平成31年）
- アカデミア建築研究所一級建築士事務所設立 / 代表
 - 株式会社アカデミア一級建築士事務所設立 / 代表取締役（～2018年）
 - NPO法人日本民家再生リサイクル協会設立 / 副理事長（～2001年）
 - NPO法人日本民家トラスト協会設立（～2017） / 副理事長
 - 株式会社スタジオアイ一級建築士事務所設立 / 代表取締役
 - 現在に至る。



初めに：39年間の仕事年表

(1) 建築を目指して

--- 建築設計が自らの仕事となるまで

(2) 私の仕事

--- ポイントとなった12の仕事

(3) 古民家再生に関わる

--- マスコミで多く取り上げられる

(4) クライアントと建築家

--- 建築はクライアントと建築家のコラボレーション

SHUNSUKE IMAI

& Partners

1981 - 2020

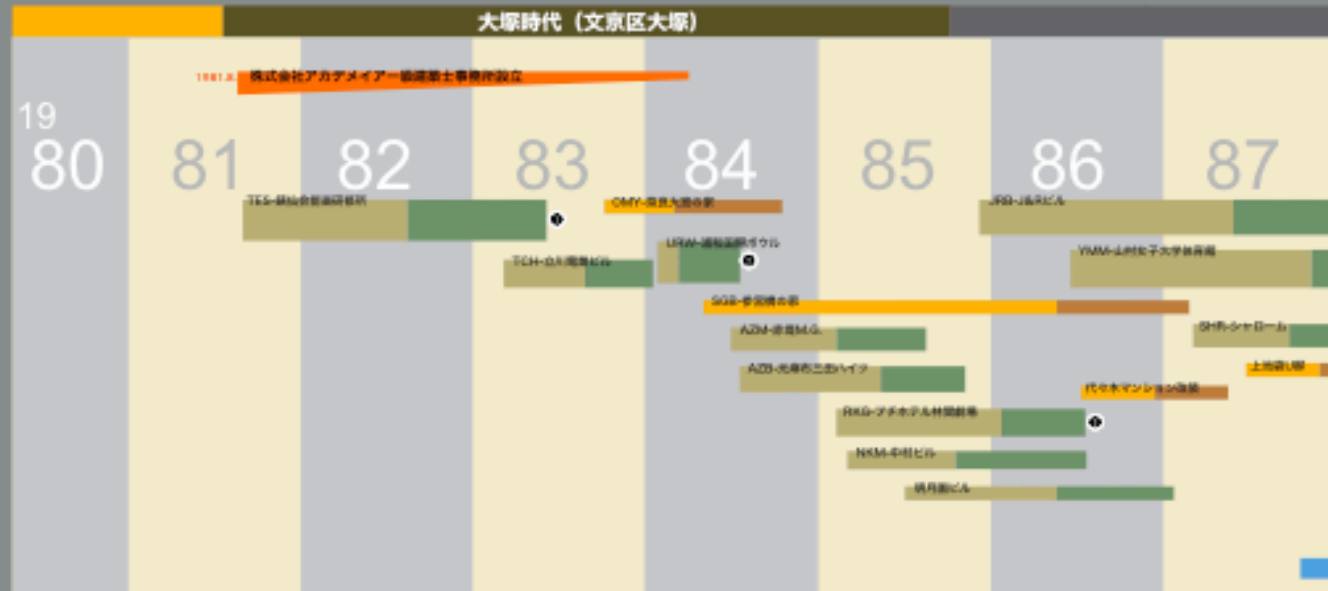


39年間の作品年表



SHUNSUKE IMAI

& Partners



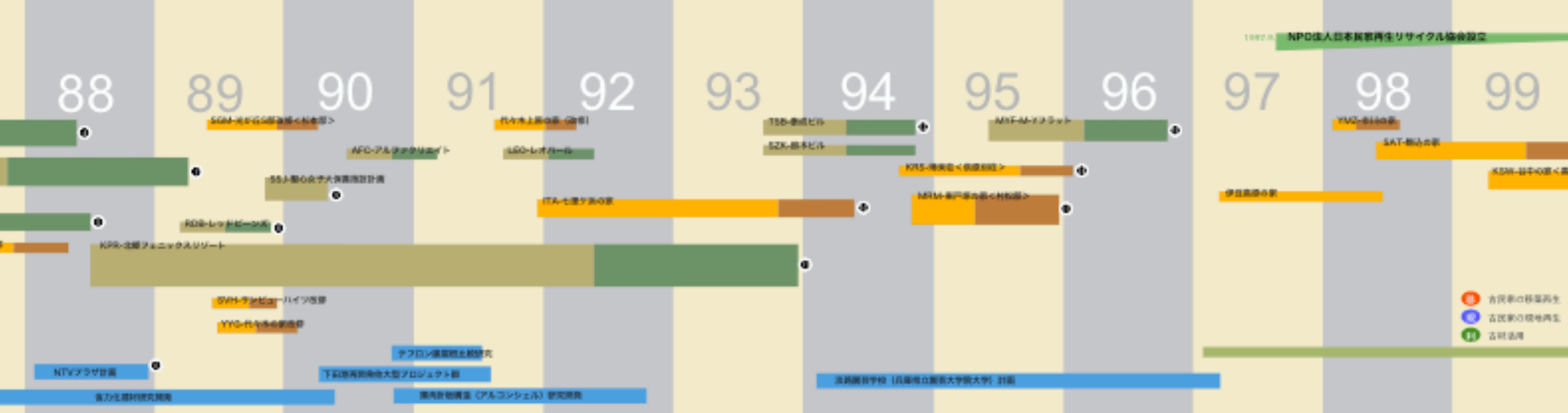
1981 - 2020



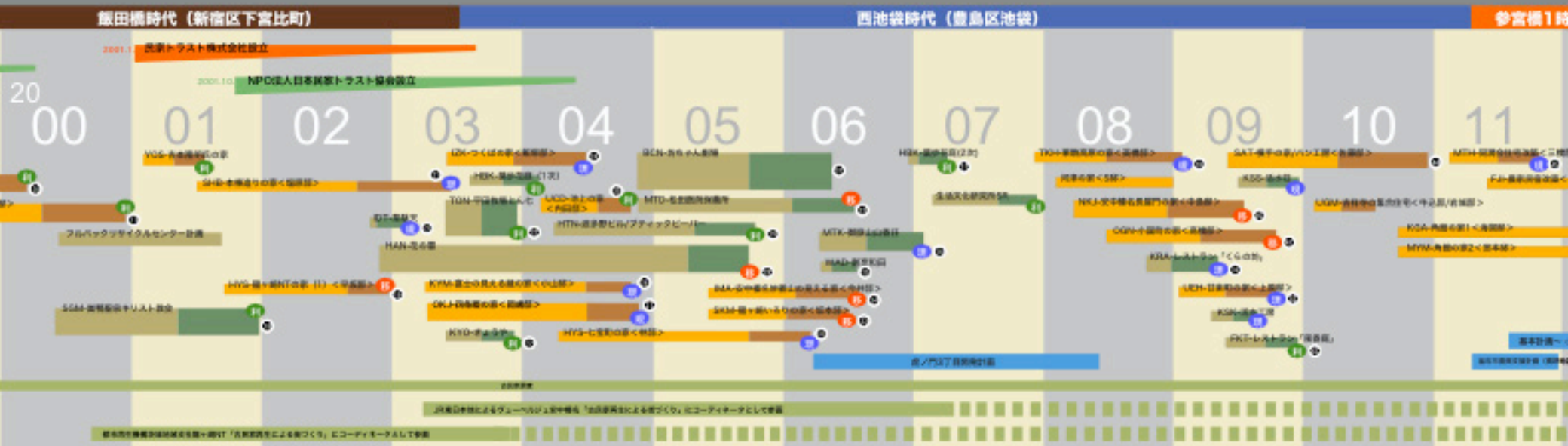
バブルの崩壊→古民家再生の始まり 1988年～1999年

目白台時代 (文京区目白)

練馬時代 (練馬区練馬)



古民家再生を含めた様々な仕事の展開 2000年～2011年



本来の日本建築を求めて 2000年～2011年



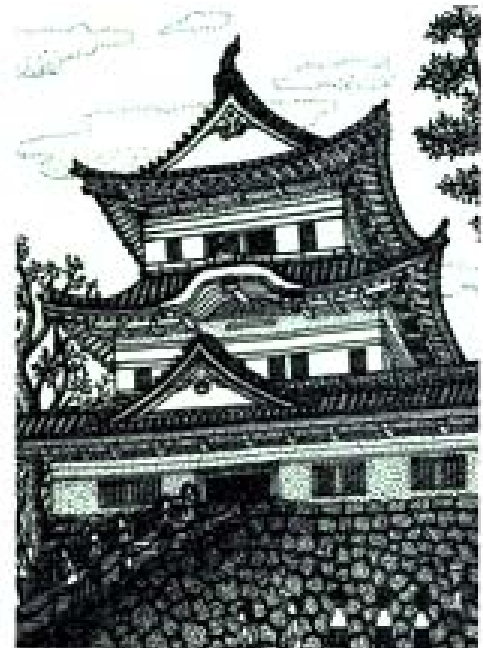
SHUNSUKE IMAI & Partners

(1) 建築を目指して

--- 建築設計が自らの仕事となるまで ---

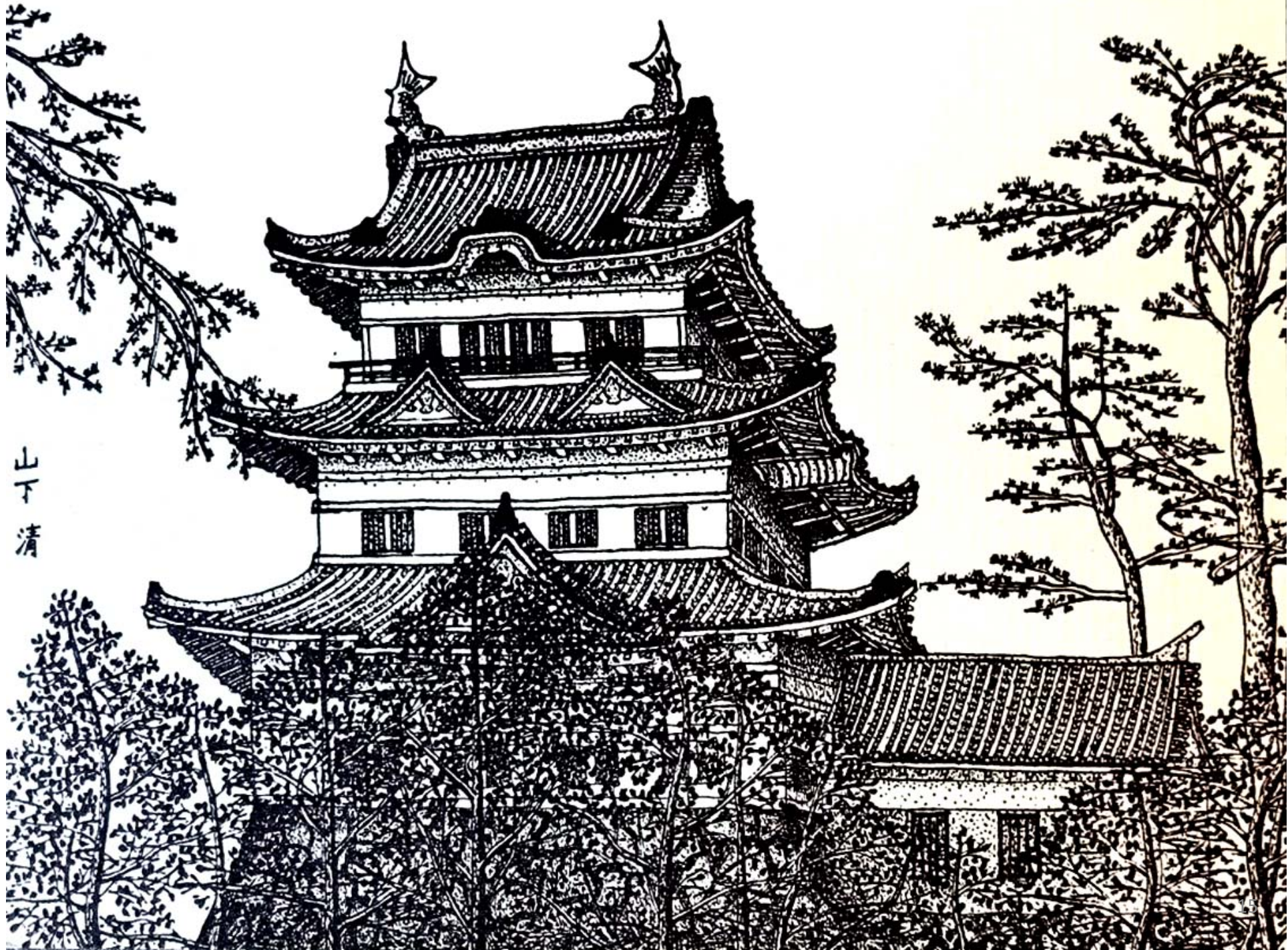
これがすべてのスタート

6歳の頃に初めて目にした
山下清画伯の絵はがき……





山下清



山下清







山下清

小中学校の美術の自由課題のテーマはいつも建築でした。子供心に自分は建築の道に進むものだと考えていた気がします。



- 金閣
- 藥師寺東塔
- 法隆寺夢殿
- 東大寺南大門
- 東本願寺
- :
- :

北野高校時代

- 理系科目や英語はそれなりにできましたが、国語と倫社に強烈な苦手意識がありました。
- 国語の能力については当時は半ば諦めていた感じがします。（のちに予備校で素晴らしい先生に出会って道が拓けます）
- 倫社は、足立（時司）先生でしたが、授業は興味が薄く、哲学の時間が特に辛く、いつも眠気との戦いでした。

北野高校時代

- しかし、建築の道に進むのに、のちにこれらがどれほど重要かを思い知らされることになります。

大学進学の時、建築学科の選択に迷いは全くありませんでした。

大学 学部時代

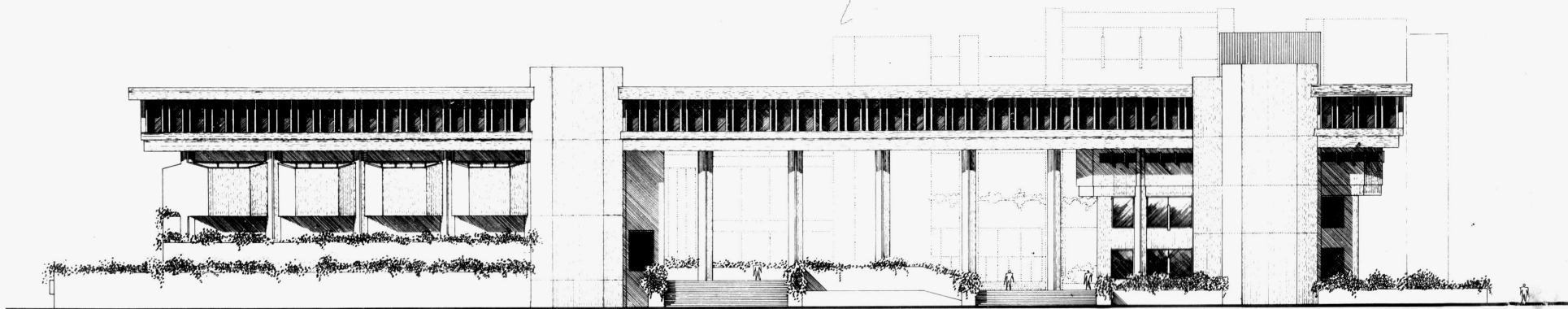
- 京都大学（建築学科）では、一年生（一回生）から、少しですが建築の授業があります。
- 土曜日の午後に「建築概論」という講義があり、「建築」とはデザイン以上に「哲学」が重要である、という内容に少し不安な気持ちになった記憶があります。
- しかし、教養の図学やデッサン、専門に入ってから
の科目や設計演習には何の不安もなくむしろ自信がありました。

大学 学部時代

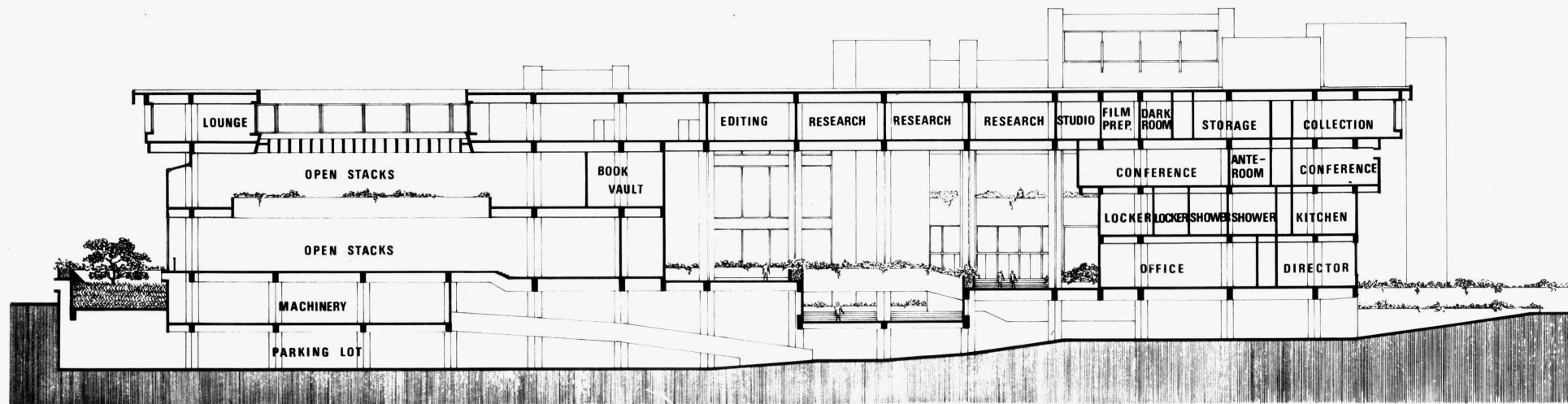
- 設計演習は特に好きで、一時は没頭して打ち込んでいました。

大学 学部時代

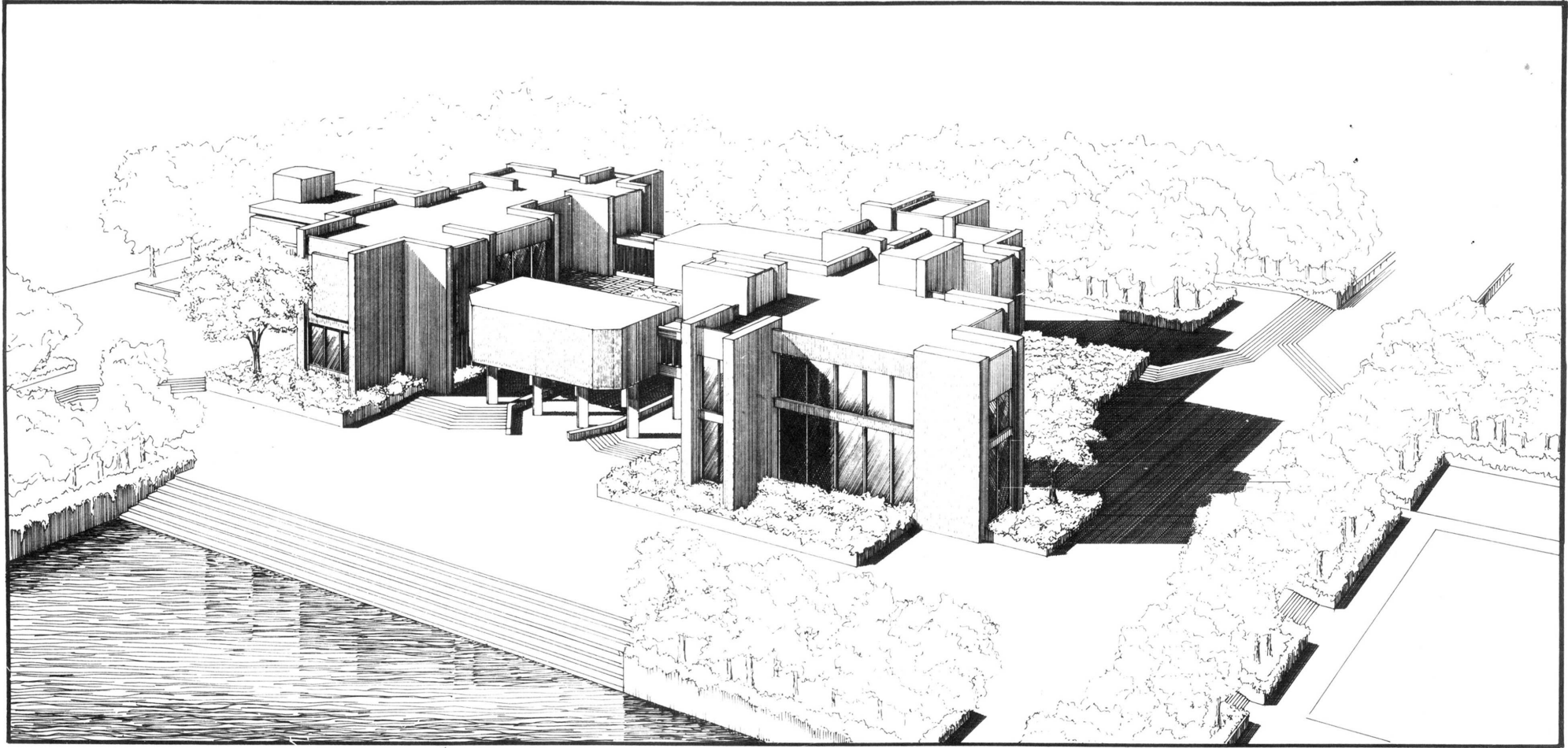
- 卒業設計の作品の一部をご覧ください。



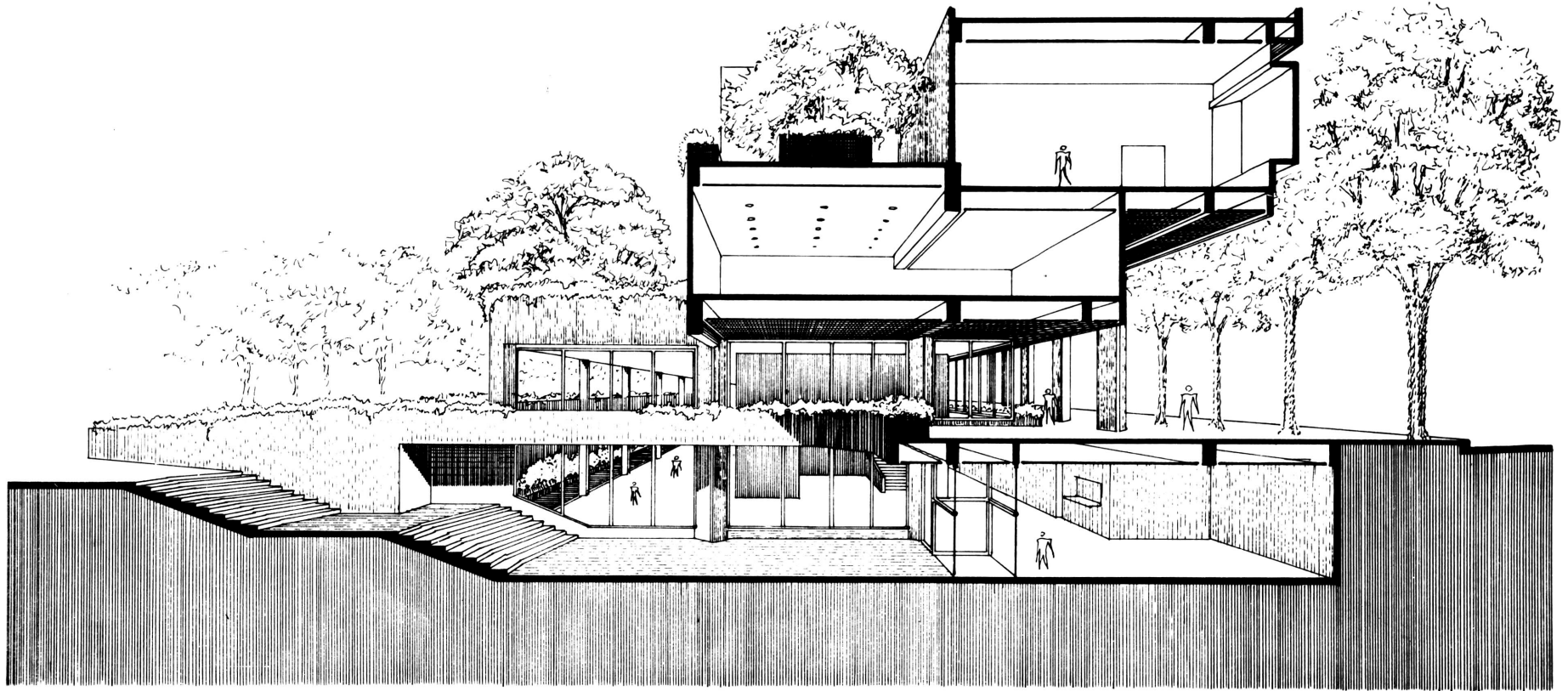
NORTH ELEVATION



A - A SECTION



AERIAL PERSPECTIVE LOOKING SOUTHEAST



SECTION PERSPECTIVE LOOKING NORTH

大学 学部時代

- 講評で、のちに指導教官になっていただいた増田友也教授に酷評されました。
- 設計の内容ではなく、今あなたがやることはこれではない、といったことだったと思いますが、その時は頭に血が上って、あまり覚えていません。
- しかし、これが、研究室（大学院）に進んでからの姿勢を変える大きなきっかけになりました。

修士時代（増田研究室）

- 大学院では、増田友也研究室に進みました。
- カリキュラムの大きな柱は、ゼミと研究室でも実施設計でした。
- アトリエ（増田研究室）での泊まり込みが常態化します。
- その中で、実施設計（インドのホテル、石川県の病院など）に関わったことは大変な経験になりました。
- しかしゼミが私にとっては、克服しなければならない巨大な壁になります。

増田先生

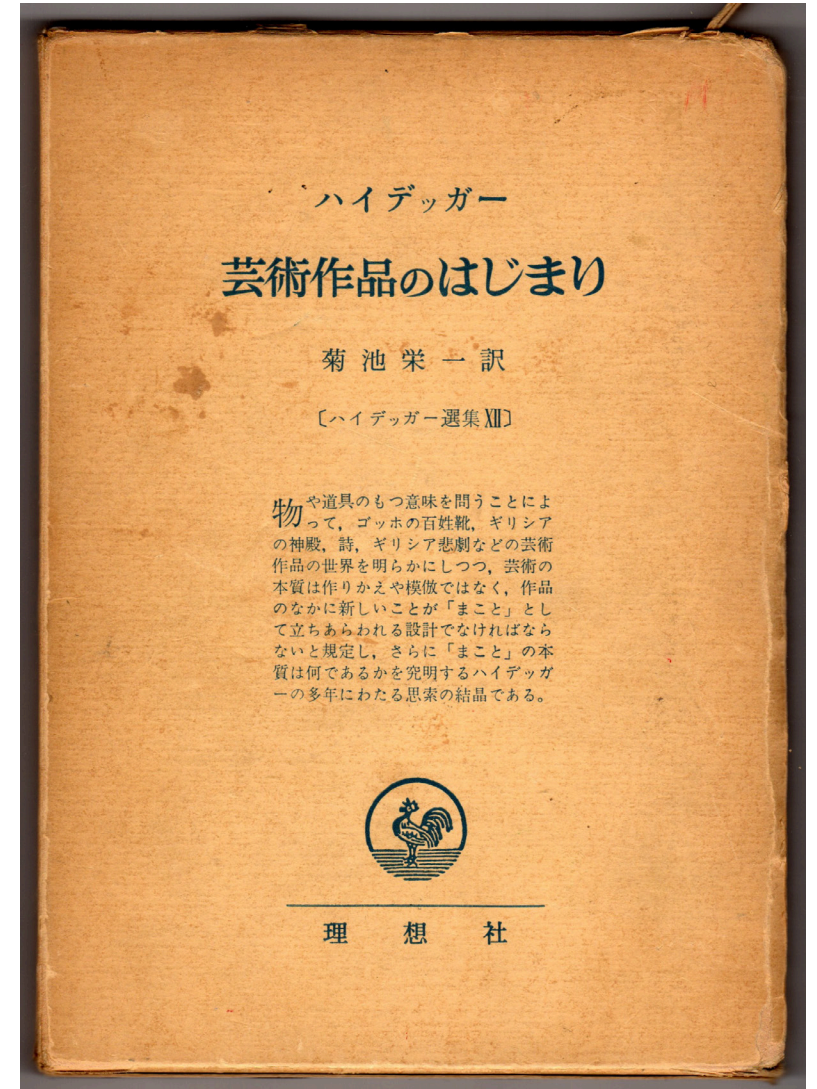


修士時代（増田研究室）

- ゼミで増田先生が用いたのは、次のような書物です。

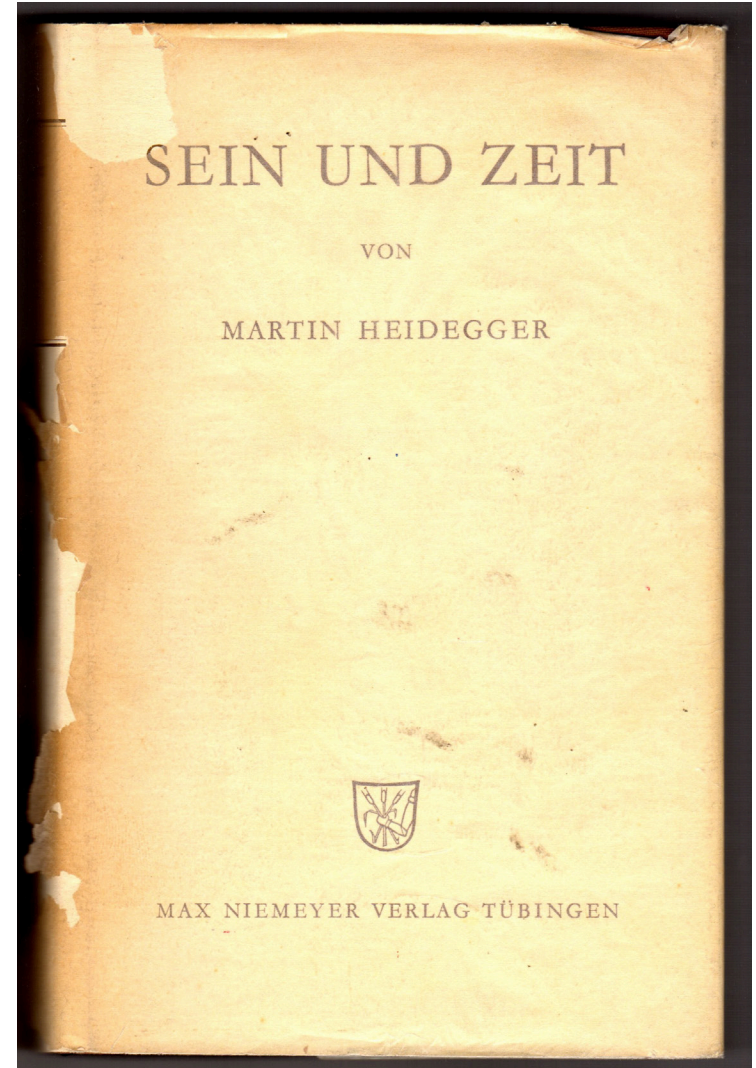
修士時代（増田研究室）

- ハイデッガー著
「芸術作品のはじまり」



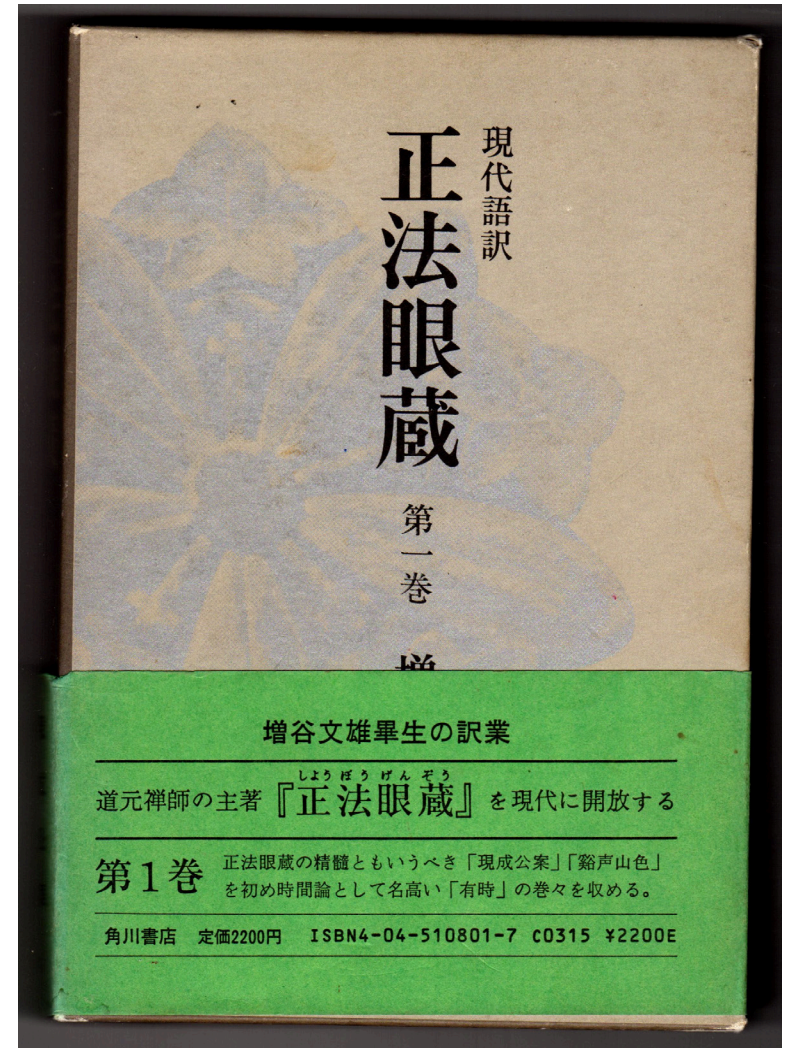
修士時代（増田研究室）

- ハイデッガー著
「SEIN UND ZEIT」
「存在と時間」



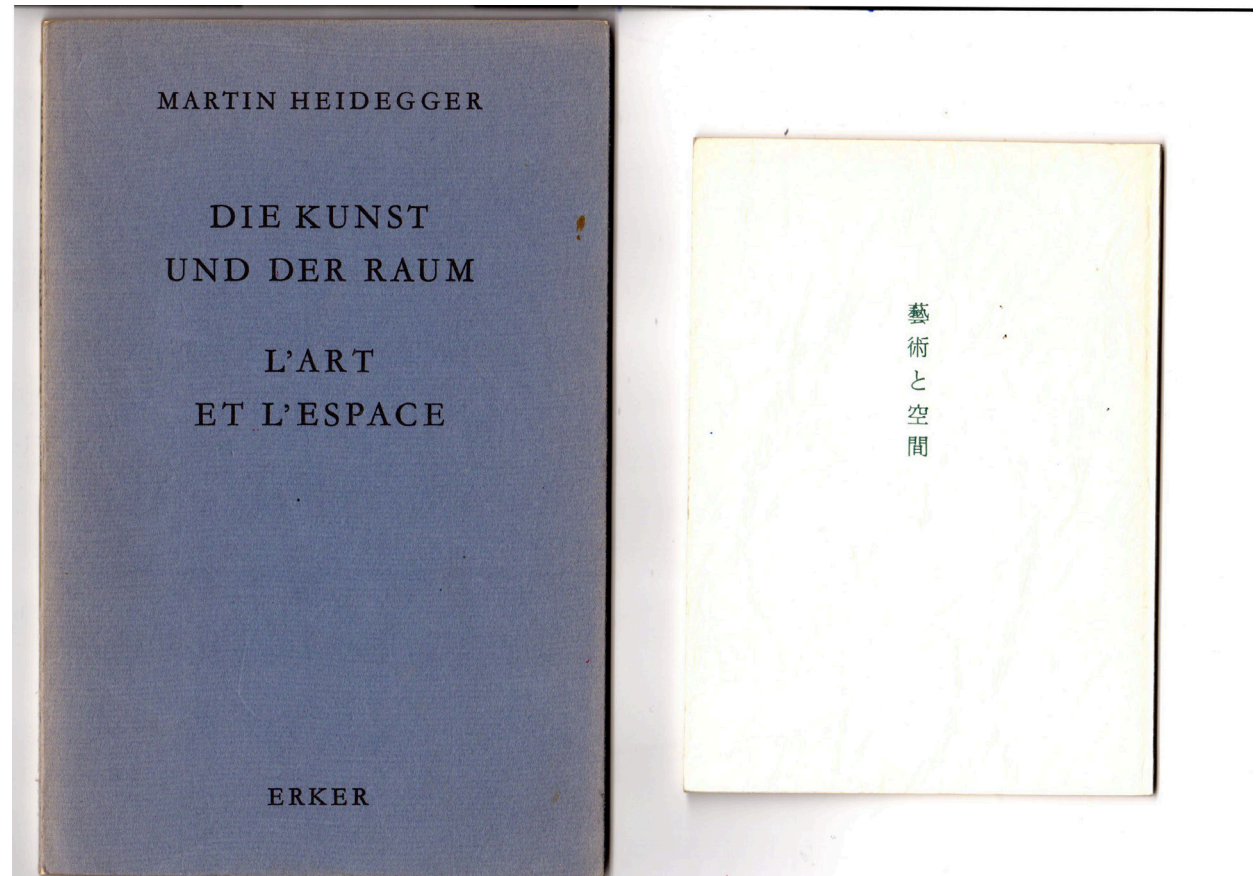
修士時代（増田研究室）

- 道元著
「正法眼蔵」



修士時代（増田研究室）

- 増田研究室では、中村貴志（なかむらうずし）（助手＝当時）さんの翻訳チームに加わって、ハイデッガーの、「芸術と空間」（Die Kunst und Der Raum）の翻訳も担当させていただきました。



レーモンド事務所時代

- 東京に移り、レーモンド設計事務所に入りました。
- すでに、アントニン・レーモンドさんは1年前に他界され、その10年前とは、事務所の様子が変わっていました。
- 当時65人の中規模の事務所でしたが、レーモンドさんが抜けて、アトリエ事務所から一般の設計事務所へと変貌していました。
- ここでは、2年半の間に、企画設計（47件）から、実施案件の設計から竣工（4件）まで実務経験をたっぷり経験することができました。

(2) 私の仕事 (創業から今日まで)

--- ポイントとなった12の仕事を含めて ---



創業

- 渋谷の古いビルのペントハウスの一角を借りました。

創業

- 初めての事務所の名前はアカデミア（プラトンの学園）です。
- 当時揃えた道具は、製図板に平行定規、黒電話とコピー機（青焼き）のみです。

初めての仕事

- しかし、電話の前で新しい仕事が入るのを待ちますが、東京に来て3年で、住所録にも100人足らずの知り合いしかいませんからかかってくるはずもありません。
- 急に「永久に仕事来ないのでは・・・」という不安に駆られます。



初めての仕事

- しかし約1ヶ月が経ち、一本の電話がありました。
- 「今井さん、能楽堂の設計しますか？」レーモンド事務所時代の後輩からです。

初めての仕事

- 能楽堂の設計？ 木造のあの4本柱の・・・？
- という感じでしたが、取り敢えず会ってみることにしました。

初めての仕事

- クライアントであるお能の団体、社団法人鏡仙会（観世榮夫理事長）との間にはすでに企画会社が入っており、それまでに何人もの建築家が関わり、辞めて行ったという、いかにも大変そうな話でしたが、こちらとしてはやるしかないので、受けることとなりました。

初めての仕事

- それが、次にお話しさせていただく、「鍍仙会能楽研修所」です。
- 既存舞台を解体修理し、新しい建物（劇場）を作り舞台をそこに納める、ということでした。

- この後「鍊仙会能楽研修所」から始まった多くの仕事の中の、転機となった12の案件を続けて簡単にご紹介させていただきます。
- これはとりもなおさず、私と私の建築設計の歴史の流れそのものとなります。



ポイントになった12の仕事

- 1. 1983年 鏡仙会能楽研修所 -能楽堂- (南青山)
- 2. 1988年 シャローム -別荘- (小淵沢)
- 3. 1989年 山村女子大学総合体育館 (鳩山町)
- 4. 1993年 北郷フェニックスリゾート -ホテル- (北郷町)
- 5. 1995年 オリンピック候補選手の家 (東戸塚)
- 6. 2001年 谷中の家 (谷中)
- 7. 2003年 とん七 -トンカツレストラン- (鶴岡市)
- 8. 2004年 つくばの家 (つくば市)
- 9. 2005年 花の雲 -ホテル別邸- (伊豆高原)
- 10. 2006年 坊ちゃん劇場 -演劇専門劇場- (東温市)
- 11. 2009年 くらの坊 -和食レストラン- (河津町)
- 12. 2018年 T医院 -医院+共同住宅- (中野坂上)

1. 1983年 鏡仙会能楽研修所 -能楽堂- (南青山)



- 観世榮夫さんの写真（1）

- 鍔仙会能楽堂で



- 観世榮夫さんの写真（2）

- 国立能楽堂で



- 観世榮夫さんの写真（3）



- 恒例の鍔仙会能楽堂での忘年会で

2. 1988年 シャローム-別荘- (小淵沢)



写真: 齋部功



2. 1988年 シャローム-別荘- (小淵沢)



・客席となる階段構造

3. 1989年 山村女子大学総合体育館（鳩山町）



4. 1993年 北郷フェニックスリゾート-ホテル- (北郷町)



5. 1995年 オリンピック候補選手の家（東戸塚）

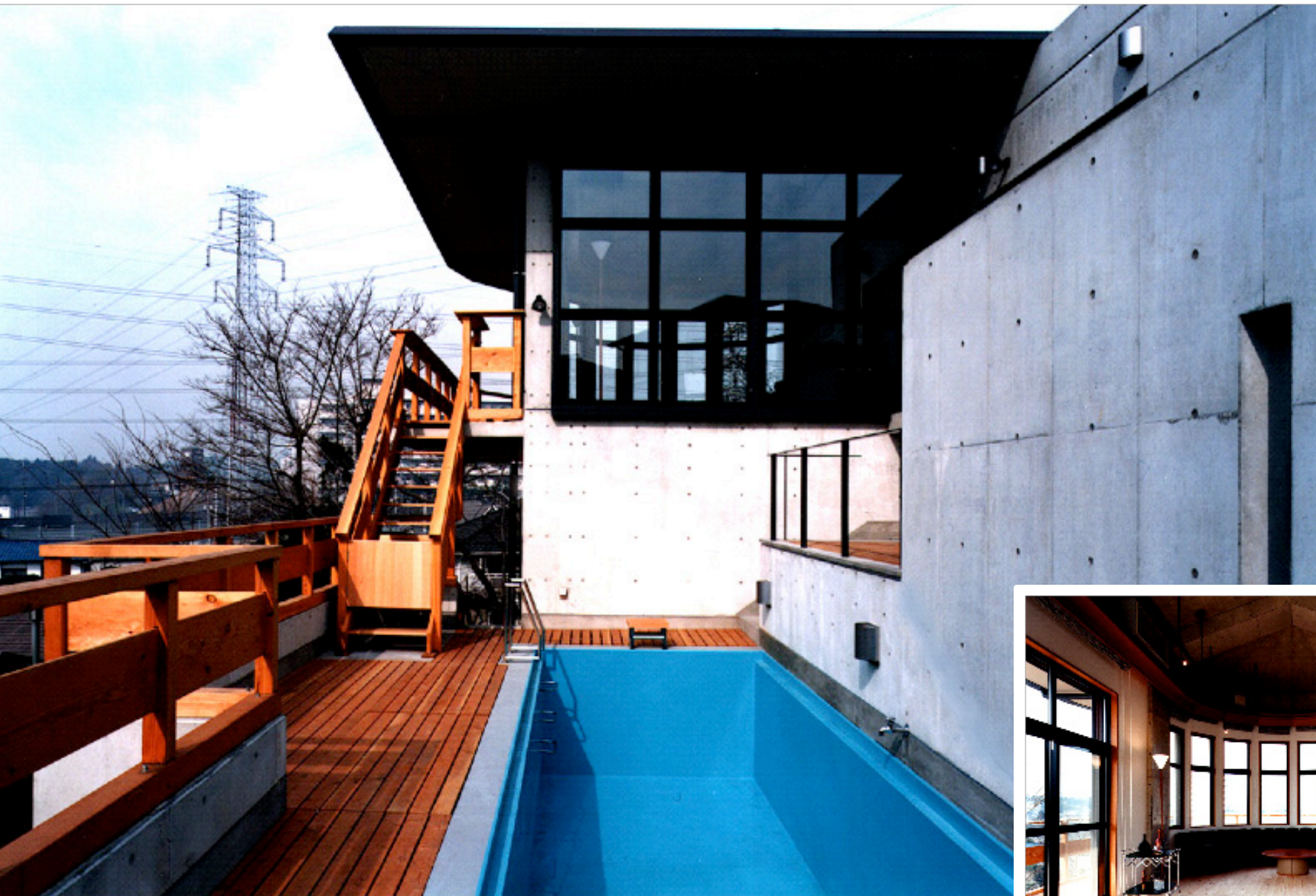


写真: 齋部功





6. 2001年 谷中の家（谷中）



写真: 齋部功



写真: 齋部功

7. 2003年 とん七 -トンカツレストラン- (鶴岡市)



写真: 齋部功



8. 2004年 つくばの家（つくば市）



写真：斎部功



9. 2005年 花の雲 -ホテル別邸- (伊豆高原)



写真: 齋部功



10. 2006年 坊ちゃん劇場 -演劇専門劇場- (東温市)



写真: 齋部功



11. 2009年 くらの坊-和食レストラン- (河津町)





12. 2018年 T医院 -医院+共同住宅- (中野坂上)



(3) 古民家再生に関わる

--- マスコミで多く取り上げられるように ---

(3) 古民家再生事業

- 1996年頃、知り合いで、田舎暮らしの不動産情報を扱っている人から、
- 「今井さんは、建築家なんだからどんどん解体されてゆく古民家の問題をなんとかしろ」
- という話があり、
- 取り敢えず山梨県の牧丘というところの古民家の現状見学会に参加した。

(3) 古民家再生事業

- 当初は古民家のことがよくわからず、問題をどう捉えて良いかすら分からないというのが本音であった。
- 彼は仕事に繋がることも念頭にあったようだが、当面NPO組織で活動しようということになり、「NPO法人日本民家再生リサイクル協会」を設立した。
- 彼が理事長、私ともう一人の建築家が副理事長。

(3) 古民家再生事業

- まずは文化的な活動を大きな柱にしようと、観世榮夫さんをお願いして会長に就任していただいた。
- その後3年ほどの間に、シンポジウムや見学会などの催し物を開催。
- 会員はすぐに1000人に達した。

(3) 古民家再生事業

- そのうち、事業（古民家再生）化の実現も視野に入るようになると、全国から約200社が集まり、私がそのまとめ役となった。
- イギリスキューガーデンへの古民家の移築、URからの古民家による街づくりの依頼などが入る（いずれも実現）。
- URの龍ヶ崎ニュータウンでの古民家再生のプロジェクトで実現したのが次の「坂本邸」。

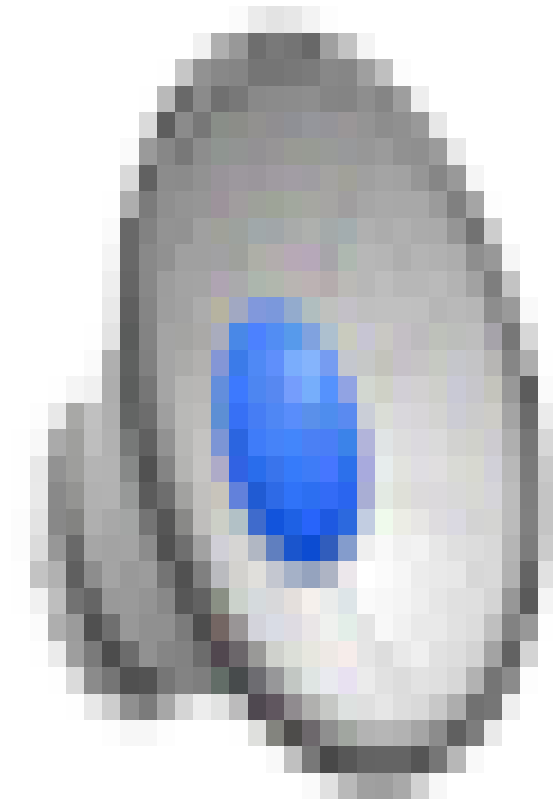
古民家再生とは

- 現地再生、移築再生、古材利用の3つがある。
- 日本中に、「古民家」は30万～40万棟存在する。
- 「古民家」の定義ははっきりしない。現在では、戦前に建ったものをそう呼ぶ場合が多い。
- 私は、昭和4年（1929年＝世界大恐慌の時）が一つの分かれ目であると考えている。

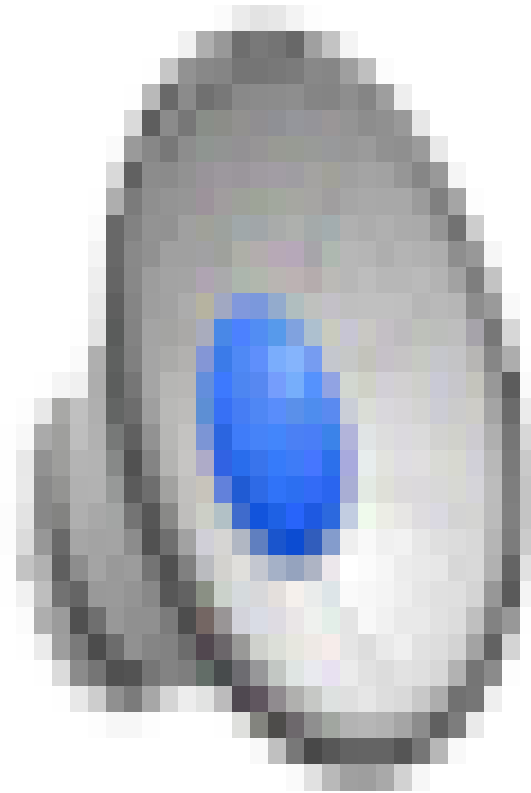
「NHKクローズアップ現代」

『甦る古民家』 2003年6月放映版から

「NHKクローズアップ現代」



「NHKクローズアップ現代」

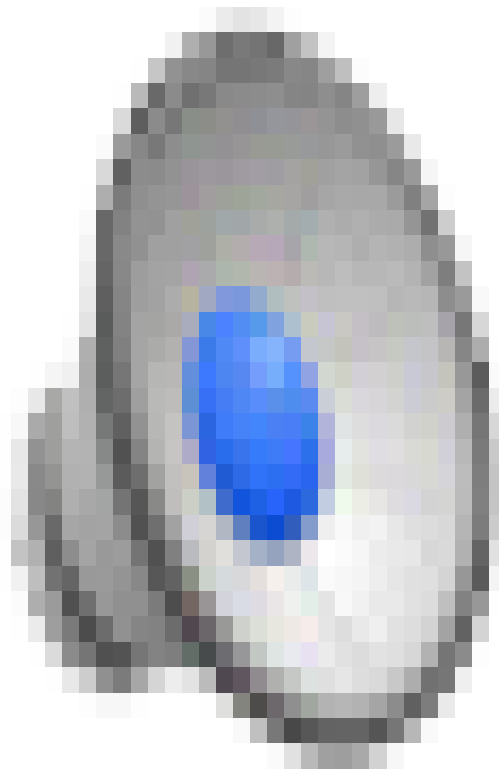


「渡辺篤史の建物探訪」から

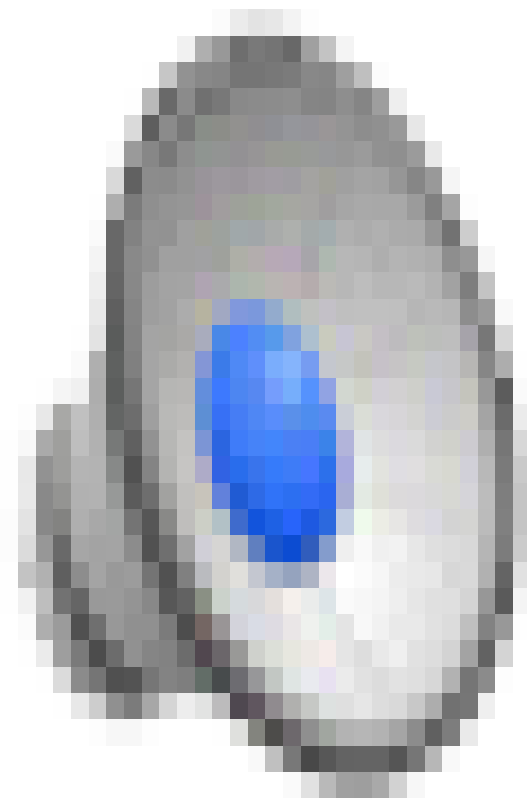
茨城県龍ヶ崎市「坂本邸」

URのプロジェクト「古民家村」の一つとして

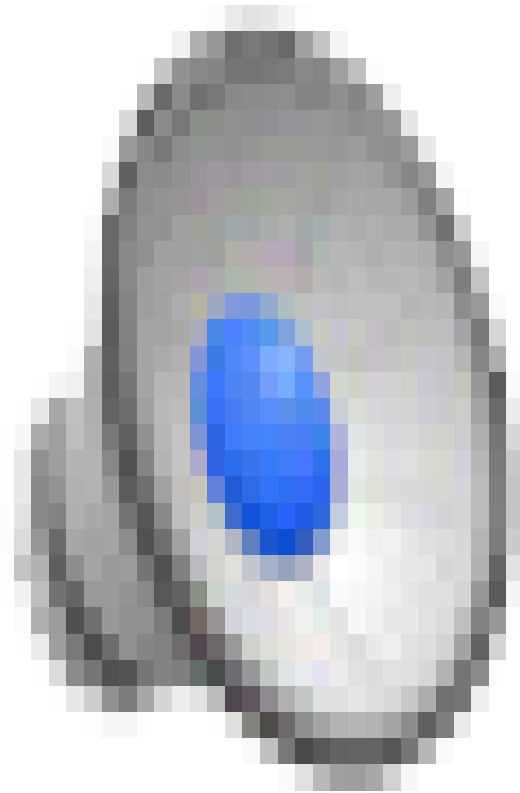
渡辺篤史の建物探訪



渡辺篤史の建物探訪



渡辺篤史の建物探訪



渡辺篤史の建物探訪





(4) クライアントと建築家

--- 建築はクライアントと建築家のコラボレーション

ほぼすべてはクライアントさんの口コミから

「クライアントネットワーク」を描いてみた。

(クライアントネットワーク図 = 講演時のみ公開)

本日はご参加、ご静聴ありがとうございました。